

114
A5281

贈從四位田丸稻之衛門直允略歴

舊水戸藩士田丸稻之衛門直允ハ北畠顯能ノ

子孫ニシテ世々伊勢國田丸城ニ居リ之ヲ

家号ト爲ス 皇室ノ式微ヲ憂ヘ尊

王大義ヲ唱フルヲ數世ナリシ是^此皆祖先

ノ遺訓ニ因レリ爲ノニ武門執權ノ忌厭スル所

トナリ家運次第ニ衰ッ豊太閤數世其節

操ヲ渝ヘサルヲ好ミシ天正十八年田丸中務

少輔具直<sup>蒲生氏郷會津
妹智タリ</sup>ヲ奥州二本松城五万石

ニ封^シ更ニ濃州岩村城五万石ニ移

<sup>蒲生氏郷會津
妹智タリ</sup>
ニ封^シ
城ニ封セラル同時ナリ



封ス具直関ヶ原ノ役西軍ニ属スルノ故ヲ以
テ戦後越後ニ配流セラレ其配所即堀丹後
守邨ニ終ル子孫流落数年ノ後本國田丸ニ
歸住ヲ聽サル

水戸權中納言(光國)之ヲ聞キ尊王ノ子孫ノ
流落ヲ憫ミ其召ス所トナリ具直ノ孫直行水
戸ニ入ル

田丸稻之衛門直允幼ヨリ兵學ヲ能クシ兼
テ史學ヲ好ミ政事ノ何モノタルヲ知ル且常ニ
皇室ノ衰運國威ノ不振ヲ慨ケリ田丸ノ

家世々大目付町奉行等ヲ襲職ス直允モ
亦此職ニ居リ事ヲ執ル敏活親切ニシテ部
民欽慕ス直允常ニ謂テ曰ク要ハ公平ニアリ
ト當時有教ノ麻吏トシテ知ラル水戸贈大
納言(齋昭)ノ出テ幕政ヲ知ルヤ外交ノ輕重
ハ兵ノ強弱ニ在リ兵備ノ緩カセニス可カラサ
ルヲ就中兵器ノ製作及ヒ兵員速成ノ方法
且其急要ナルノ議ヲ建シ賞詞アリ藩君ノ
謹ヲ幕府ニ獲テ駒竹籠ノ別墅ニ幽屏セラル
々ヤ藩地ニ謹慎ス直允曾テ江府ニ在リ幕

府ノ施政兵備、諸藩ノ情况ヲ探リ幕府ノ
佐ク可カラサルヲ知り私カニ政權奉還ノ可
ナルヲ説キ大ニ幕府ノ嫌疑ヲ獲ル嘉永ノ
初年外夷ノ侮慢甚シク幕閣萎靡國勢
地ニ墜ントスルニ際リ廢幕攘夷ノ止ム可カ
ラサルヲ説キ且文久年間京師ニ在リ公卿
及ヒ諸藩慷慨ノ人士ニ交リ爲ニ益々
幕府ノ嫌疑ヲ重ヌ然レモ當時直允職目
付タリシヲ以テ僅カニ危難ヲ免カル
直允少時ヨリ常ニ
皇室ノ尊ム可ク

國家ノ重ンス可キヲ藩ノ子弟ニ説ク京師
ヨリ還ルニ及ニテ益々尊攘ノ唱道士氣ノ振興
ニカヲ盡シ且常ニ八萬ノ兵見ルニ足ラス譜代
ノ諸侯與ニシ易シトノ壯語ヲ放テ愈々幕
府ニ着眼セラレ然レモ爲メニ大ニ壯年子弟
ノ望ミヲ敷キ得タリト云フ
安政五年 勅書ヲ水藩ニ賜ヒ幕府
ノ阻格ニ遭フ水戸ノ士民數千人江戸ニ到リ
修攘ノ 勅書ヲ回達セシテ乞フ直允
南上シテ之ヲ鎮撫シ且自カラ建議スルニ士

民ノ志情ヲ達セシメントヲ以テシ併テ
ヲ奉シテ藩主ノ寛ヲ雪ノ幾干モ無ク 勅書
奉還ノ幕命下ル当路之ヲ支フル能ハス
幕旨ニ從ハントス再ヒ一藩ノ憤慨スル所ト
ナリ城南長岡驛ニ屯集シテ奉還ノ議
ヲ破ラントス直允江府ニ上リ大義ヲ辨シ
國情ヲ陳シ奉還ス可カラサルノ議ヲ建ス
言聽カレス萬延元年外轉シテ使番ト
ナリ水戸ニ下ル文久三年二月順公ノ朝覲ニ
扈從シテ京都ニ抵ル九月町奉行トナル

此時ニ当リ直允窮カニ以謂ラク我君 朝
覲ノ日外夷掃攘ノ 詔ヲ賜ヒ且屢幕府ニ命
シテ速カニ奏功ヲ期セシメントス而シテ幕府因
循外侮日ニ甚シ國威兵ナリ群カラ宣ヘ以
テ酋守攘ノ義ヲ振ハスバ何レノ日カ 勅意ヲ
貫徹スルコトヲ得ンヤト即元治甲子ノ
三月幕府ノ因循ヲ鳴ラシ 叡慮ヲ遵奉
シ攘夷ノ先鋒タラント聲言シ書ヲ閣老
板倉勝靜(松山藩主)及ヒ備前藩主(茂政)
等ニ送ル其言頗ル慨切ナリ當時直允町奉

行タリ名ヲ暴徒ノ撫育ニ藉リ兵ヲ提サケ
藩地ヲ設シ筑波山ニ入り總兵ヲ督ス直允
家ヲ設スルニ方家人ニ謂テ曰ク余ヤ國家
多難ノ今日町奉行ノ樂地ニ安ンス可キ
者ニアラス死以テ君國ニ盡スノ一事アル
ノミト次テ書ヲ幕府ニ送り檄ヲ四方ニ傳
ヘ日光大平ノ諸山ニ據ル時ニ幕府水戸
ノ支族松平大炊頭頼徳宗戸藩主ヲシテ鎮
撫セシム直允命ヲ奉セス却テ幕吏ノ
姑息國威ノ失墜寔ニ攘夷ノ止ム可カ

ラサルヲ説ク大炊頭直允ノ言ヲ所理ア
リト爲シ之ヲ幕府ニ致シ備前藩主ト共
ニ直允等ヲ助ケ國家ノ兵鎮タラシメン
ト請フ幕府之ヲ斥ケ猥ニ賊ニ党スル者
ト爲シ死ヲ大炊頭以下百余名ニ給フ直
直允内記某ニ謂テ曰ク天下ノ形勢斯クノ
如ク幕府ノ爲ス所斯クノ如シ事ヲ談スル
只長藩アルノミ骨ヲ埋ムノ地亦長藩ナル
ノミト已ニシテ幕府參政(若年寄)田沼
玄蕃頭意尊ヲ都頭ト爲シ信野ノ

諸侯ニ命シテ直允等ヲ討タシム幕兵
毎ニ敗ル更ニ関東信奥ノ十八藩ニ命ヲ
傳ヘ大挙シテ之ヲ圍ム其兵六万人同年
十月武田伊賀守山國兵部ノ憤起スル
ニ及ヒ共ニ京師抵リ 關下ニ伏シテ衷
情ヲ訴ントシ死士貳千餘人ヲ拔^キ幕兵
及ヒ諸藩ノ圍ミヲ衝キ道ヲ水曾ノ山路
ニ取り遠ク嶮ヲ冒シテ同年十二月越前國
新保驛ニ到ル衆寡適セス糧食繼カス伊
賀守ヲ推シ總領トシ加州ノ軍營ニ就テ衷

情ヲ 朝廷ニ奏ス 朝廷納レント欲シテ遂
ニ行ハレス 朝廷一橋慶喜卿ニ命シ之ヲ救ハ
シム卿并謝シテ曰ク直允等ハ臣カ生家ノ
臣ニシテ幕府ノ法憲ニ觸ル申請スル能
ハス請フ希クハ松平容保^{會津藩主}ニ命セヨト
朝廷更ニ容保ニ命ス容保命ヲ并シ
將ニ幕府ニ請フ所アラントス乙丑ノ一月幕
府田沼玄蕃頭ヲ京師ニ入レ一タヒ奏シテ
後直允等ヲ處置セントシ玄蕃頭大津
驛ニ到ル 朝廷玄蕃頭カ波山ノ始末

本記^事 其他去歲來内外ノ措置ヲ誤ルヲ
以テ玄蕃頭ノ入京ヲ大津ニ停ム玄蕃
頭大ニ怒リ正生直允等ヲ處置スルノ權勢
共ニ幕府ニ存ス何ソ 朝命ヲ候ニヤト
直チニ越前敷賀ニ返ヘシ大垣彦根鯖江
桑名藤堂小田原以下十余藩ノ兵ヲ督
シ令ヲ加州藩ニ下シ正生等二千余名ヲ引
継カシメ奏問ヲ經スシテ殘刑ニ處ス容
保之ヲ聞キ痛歎シテ罪ヲ 朝廷ニ謝ス
乙丑二月四日田沼玄蕃頭幕命ヲ傳ヘ正生

共昌直允等二十四人ヲ敷賀松原ニ斬ル
時ニ加州藩ノ故障アリ越藩等ノ異議ス
ル所トナリ一旦之ヲ停メ京師ニ奏セシモ幕
府ノ峻拒ニ遭ヒ同十五日以後ニ於テ三百餘
名ヲ死ニ餘ハ遠嶋追放各藩分拘等ニ處
シ以テ局ヲ畢フ
維新ノ後子孫皆曰ニ依テ録セラレ
戊辰二月 朝廷直允等ヲ抱忠邁禍ヲ
憫ニ西本願寺ニ命シ敷賀松原ニ墳墓
ヲ脩メシメ賜ヒ仁和寺總督宮香花料

ヲ賜フ

明治八年一月松原神社ト追謚セラル

明治十一年十月車駕北幸蹕ヲ敷賀ニ駐
メ祭祀五百金ヲ賜フ

明治廿二年五月二日一族廿余名ト共ニ靖國神
社へ合祀御出サル

明治廿四年十二月十七日從四位ヲ贈ラル

履歷

茨城縣水戸市上市天王町

十六番地士族(旧水戸藩士)

贈從四位田丸稻之衛門嗣子正六位田丸 祝 稔

勲五等

嘉永三年五月生



履歷

茨城縣水戸市上市天王町

十六番地主族(舊水戸藩)

田九稅檢

嘉永三庚戌年九月

明治五壬申八月九日

一十五等出仕申付候事

司法省

一東京裁判所詰申付候事

一断獄課

明治六年二月廿三日

一任司法權少解部

同年七月九日

一茨城裁判所在勤申付候事

同月十七日

一断獄課

明治七年四月九日

一任少解部

明治八年九月四日

此日第七十三号公布ヲ以テ
解部ヲ編廢セラル

一補十二等出仕

同年十月九日

一任權中属

鶴岡縣

一刑事課兼民事課

同月十三日

一臨時刑事々件取調掛申付候事

明治九年二月十八日

一補十等出仕

同年六月十三日

一補司法省十等出仕

司法省

一鶴岡裁判所在勤申付候事

一刑事課

同月十七日

一 糾問掛申付候事

同年七月十三日

一 明治八年一月ヨリ十月迄皆勤候ニ付其賞トシテ目録之通
下賜候事

目録金拾圓

同年十月五日

一 任三級判事補

同月十五日

一 米澤裁判所 在勤申付候事

一 刑事課兼民事課

同年十二月十四日

一 福島裁判所 在勤申付候事

一 糾問掛申付候事

明治十年四月十五日

一 糾問掛 差免候事

一 鶴岡支廳 詰ヲ以テ福島裁判所長代理申付候事

一 鶴岡區裁判所長兼務申付候事

同年六月廿八日 此日一等判事ヨリ四級判事補迄
被廢實ニ判事判事補ヲ被

一 任判事補

一月俸三拾五圓下賜候事

一鶴岡支廳詰司以下福島裁判所長代理申付候事

一鶴岡區裁判所長兼務申付候事

同年十月十日

一月俸四拾圓下賜候事

同年十月三日

一福島裁判所詰申付候事

同月十七日

一民事課

一福島中村丙區裁判所長兼務申付候事

明治十二年十一月一日

一自今月俸四拾五圓下賜候事

同月九日

一中村區裁判所長兼務差免候事

一刑事課兼務

明治十二年五月廿五日

一福島區裁判所長兼務差免候事

一斜間掛兼務申付候事

同年六月九日

一職務勉勵候事付其賞下三金拾五圓下賜候事

明治十三年三月二日

一職務勉勵候ニ付慰勞金貳拾五圓下賜候事

同年十月二十八日

一任判事

一年俸六百六拾圓下賜候事

一福島裁判所在勤被仰付候事

明治十四年一月廿七日

一叙正八位

同年六月十三日

一若松支廳詰ヲ以テ福島裁判所長代理ヲ命シ候事

同年十月十五日

一若松始審裁判所長ヲ命シ候事

明治十五年八月十日

一自今年俸七百八拾圓下賜候事

一福島始審裁判所長ヲ命シ候事

同年十月廿五日

一叙從七位

明治十六年二月十七日 (此月一日裁判
區画改正セラル)

一福島始審裁判所若松支廳長ヲ命シ候事

同月十九日

一若松三河ノ臨時福島重罪裁判所長ヲ命シ候事
明治十七年五月一日

一大阪控訴裁判所詰ヲ命シ候事

同年六月七日

一民事局詰

同年十二月十六日

一大阪始審裁判所詰ヲ命シ候事

同月廿七日

一豫審掛ヲ命シ候事

明治十九年四月一日

一臨時豫審事件取調ヲ命ス

同年七月十日

一任始審裁判所判事

一叙養任官四等

一下級俸下賜

同年十月廿七日

一叙正七位

同年十月廿八日

一官制改革ノ際異常ノ勉勵候ニ付金七拾五圓壹圓

明治廿年一月四日

一刑事公判裁

同年二月十日

一本廳執務細則編纂委員ヲ命ス

明治廿二年一月四日

一民事課

同年八月七日

一中級俸下賜

明治廿二年一月四日

一民事課

同年九月廿日

一會議局誌

明治廿三年六月卅日

一叙勲六等賜瑞寶章

同年八月十九日

一陞叙奏任官三等

一下級俸下賜

同年八月廿一日

一執達吏登用試驗委員長ヲ命ス

同年十月廿二日

一叙奏任官三等賜中級俸

一補大阪地方裁判所部長

同年十一月一日

一民事第一部

明治廿四年一月四日

一民事第一部

同年八月十六日

一賜七級俸

明治廿五年一月四日

一民事第一部

同年二月十五日刑法改正案諮問三府取調委員ヲ命ス

同月廿五日

一承廳高法実施手續取調委員ヲ命ス

同月廿七日

一叙從六位

同年十二月十四日

一叙高等官五等

明治廿六年一月廿五日

一補福井地方裁判長

同廿七年四月一日

一五級俸下賜

同廿八年二月廿日

一陞敘高等官四等

同年五月廿三日

一敘正六位

同年十二月廿九日

一敘勳五等賜瑞寶章

同廿九年十二月廿八日

一補大阪控訴院部長

一四級俸下賜